

コニカミノルタグループ
2011年3月期
第2四半期決算説明会

2010年10月28日
コニカミノルタホールディングス株式会社
代表執行役社長 松崎正年

● **本資料の記載情報**

本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

● **将来見通しに係わる記述についての注意事項**

本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

今回の決算のポイント(対公表値)



上半期実績

- ▶ 情報機器事業は、高採算のMFP新製品が牽引し、半期を通して販売は堅調に推移。部品不足等に起因した1Qでの逸失収益は2Qで概ねキャッチアップ。売上高は円高影響で僅かに未達ながら、営業利益は超過達成。
- ▶ オプト事業は、主力製品全般に顧客先の生産調整の影響を受け、2Qは伸び悩む。
- ▶ 全社では、オプト事業の下振れと円高影響を、情報機器事業及びその他の事業の上振れ、コスト削減で補完。売上高は僅かに未達ながら、営業利益、当期純利益は超過達成。

通期業績見通し

- ▶ 3Q以降の為替前提は、USDドルを5円円高に見直し、『USDドル=85円、ユーロ=110円』とする。
- ▶ 売上高は、円高による換算上の目減り、オプト事業での生産調整の影響等をリスク要因として織り込み、前回予想から300億円減少を見込む。
- ▶ 利益は、MFP新製品の販売が好調な情報機器事業及びその他の事業での利益増加と、全社あげてのコスト削減努力によってマイナス影響を補完し、営業利益、当期純利益とも前回予想を据え置く。

The essentials of imaging

2

上半期のグループ業績を総括すると、主力の情報機器事業は、第1四半期に部材調達難等による機会損失が一部ありましたが、第2四半期は収益性の高いMFP新製品の販売好調により、売上高こそ円高の影響を受けて若干未達ながら、営業利益は計画を超過達成しました。一方、オプト事業では主要製品が何れも第2四半期より調整局面となり、売上・営業利益ともに弱含みで推移しました。計測機器事業や産業用インクジェット事業といった「その他」事業が好調に推移した事や、全社で経費削減に取り組んだ事により、グループ全体では売上高が若干未達ながらも、営業利益および当期純利益は計画を超過達成する事が出来ました。

通期業績見通しについては、下半期の為替前提はUSDドル85円、ユーロは110円と想定しました。この円高によるマイナス影響やオプト主要製品の調整影響を織り込み、売上高のみ通期見通しを前回予想から300億円下方修正しました。営業利益および当期純利益については、オプト事業の調整影響は見込むものの、情報機器事業の新製品効果の更なる拡大や、好調な「その他事業」の一層の収益貢献などにより補完出来るものと考え、当初公表値を据え置きます。

2010年度上半期 全社業績要約



	(単位: 億円)							
	10年度 1H実績	09年度 1H実績	増減率 YoY	10年度 1H公表値	10年度四半期別 1Q実績	2Q実績	増減率 QoQ	
売上高	3,918	3,933	0%	4,000	1,947	1,972	1%	
営業利益	226	92	147%	210	98	128	30%	
(営業利益率)	5.8%	2.3%		5.3%	5.1%	6.5%		
のれん代償却費	43	48	-10%	45	22	21	-4%	
のれん代償却前営業利益	269	139	93%	255	120	149	23%	
(のれん代償却前営業利益率)	6.9%	3.5%	3.3%	6.4%	6.2%	7.5%		
当期純利益	86	35	144%	80	35	51	47%	
(当期純利益率)	2.2%	0.9%		2.0%	1.8%	2.6%		
為替レート	USD	88.94	95.49	△ 6.55	※ 90.00	92.01	85.87	△ 6.14
	Euro	113.83	133.16	△ 19.33	※ 110.00	116.99	110.66	△ 6.33

※10年度2Q以降の前提レート

The essentials of imaging

3

公表値との対比は前述の通りですが、対前年比では、売上高が僅かに減収となったものの、営業利益は約2.5倍、当期純利益も約2.4倍と大幅増益を果たしました。

第1四半期から第2四半期にかけて増収増益となりましたが、情報機器事業で第1四半期の部材調達難による新製品の販売機会損失が生じた事は大変残念に思っています。

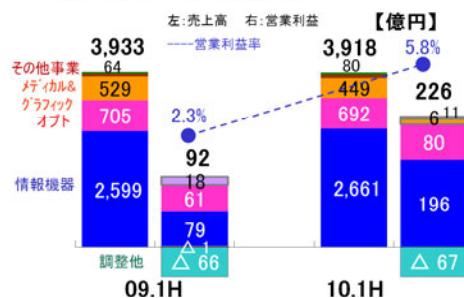
2010年度上半期 業績の総括



上半期実績(対前年比)

- 売上高: $\Delta 0\%$ (為替影響除く $+6\%$)/YoY
- 営業利益: $+147\%$ (為替影響除く $+273\%$)/YoY
- 営業利益率: 3.5ポイント改善/YoY
- ▶ 情報機器事業、オプト事業を中心に主力製品の販売数量が伸長。
- ▶ 売上高は、円高影響等で前年並みの水準に留まる。営業利益は、情報機器事業を中心に大幅回復。

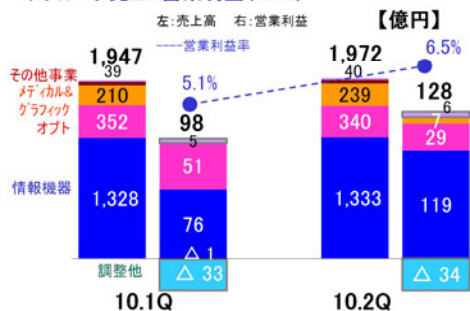
◆グループ売上・営業利益(YoY)



2Q実績(対直前期比)

- 売上高: $+1\%$ (為替影響除く $+5\%$)/QoQ
- 営業利益: $+30\%$ (為替影響除く $+56\%$)/QoQ
- 営業利益率: 1.4ポイント改善/QoQ
- ▶ オプト事業は、調整影響を受け2Qは伸び悩むが、それ以外の事業は全般にモメンタムは堅調。
- ▶ 円高が進行する中で、情報機器事業が増収増益を維持し、2Qの全社業績を牽引。

◆グループ売上・営業利益(QoQ)



The essentials of imaging

4

このスライドでは、上のグラフは対前年比、下のグラフが直前期からの推移を表しています。

対前年比では、情報機器事業およびオプト事業の主要製品販売数量は着実に伸長しましたが、円高の影響により売上高は前年並みに留まりました。一方、営業利益は情報機器事業主体に大幅増益となりました。

直前期比では、オプト事業が顧客の在庫調整影響により販売が伸び悩む一方で、情報機器事業は円高にも関わらず力強い収益成長を果たしました。

2010年度上半期 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

(単位:億円)

売上高	10年度	09年度	増減率 YoY	10年度	10年度四半期別		増減率 QoQ
	1H実績	1H実績		1H公表値	1Q実績	2Q実績	
情報機器	2,661	2,599	2%	2,690	1,328	1,333	0%
オプト	692	705	-2%	710	352	340	-3%
メディカル&グラフィック	449	529	-15%	490	210	239	14%
その他事業	80	64	24%	80	39	40	3%
調整他	37	36	4%	30	18	20	13%
グループ計	3,918	3,933	0%	4,000	1,947	1,972	1%

営業利益	10年度	09年度	増減率 YoY	10年度	10年度四半期別		増減率 QoQ
	1H実績	1H実績		1H公表値	1Q実績	2Q実績	
情報機器	196	79	148%	190	76	119	56%
(営業利益率)	7.4%	3.0%		7.1%	5.8%	9.0%	
オプト	80	61	31%	90	51	29	-43%
(営業利益率)	11.6%	8.7%		12.7%	14.5%	8.5%	
メディカル&グラフィック	6	18	-68%	5	△ 1	7	黒転
(営業利益率)	1.3%	3.4%		1.0%	-0.4%	2.8%	
その他事業	11	△ 1	黒転	5	5	6	23%
本社費用・調整他	△ 67	△ 66	-	△ 80	△ 33	△ 34	-
グループ計	226	92	147%	210	98	128	30%
(営業利益率)	5.8%	2.3%		5.3%	5.1%	6.5%	

The essentials of imaging

5

(なし)

情報機器事業 2010年度上半期の概況



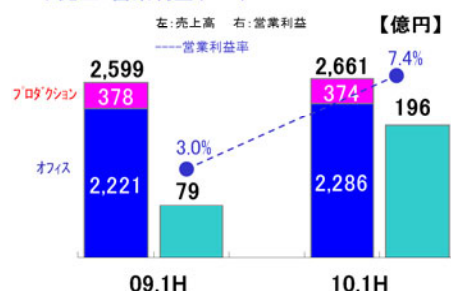
上半期実績(対前年比)

- 売上高: +2% (為替影響除く +11%) / YoY
- 営業利益: +148% (為替影響除く +267%) / YoY
- 営業利益率: 4.4ポイント改善 / YoY
- ▶ 国内外ともMFP販売台数は回復基調を維持。
売上高は円高の中でオフィスが牽引し増収。
営業利益は大幅増益。
- ▶ カラー/モノクロともに高採算の新製品の販売が牽引し、
製品ミックスが改善。これに伴い利益率が急回復。

2Q実績(対直前期比)

- 売上高: +0% (為替影響除く +5%) / QoQ
- 営業利益: +56% (為替影響除く +79%) / QoQ
- 営業利益率: 3.2ポイント改善 / QoQ
- ▶ 部品不足は解消し、1Qのスローなスタートは2Qで挽回。
- ▶ 円高が一層進行する中で、QoQ、YoY、とも増収増益を確保。上半期通して収益回復のモメンタムを維持。

◆売上・営業利益(YoY)



◆売上・営業利益(QoQ)



The essentials of imaging

6

情報機器事業では、各市場とも対前年比で回復基調が継続しており、上半期はオフィス分野中心に増収となりました。損益はカラー・モノクロ共に採算性の高いMFP新製品が増益に大きく寄与しました。

直前期比では第1四半期は部材調達問題により、スローな立ち上がりとなりましたが、第2四半期では円高の為替環境にも関わらず増収を果たし、営業利益も大幅増益を果たす事が出来ました。

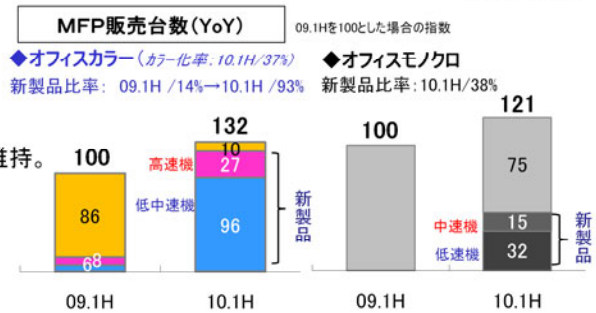
情報機器事業 2010年度上半期の販売状況



上半期実績(対前年比)

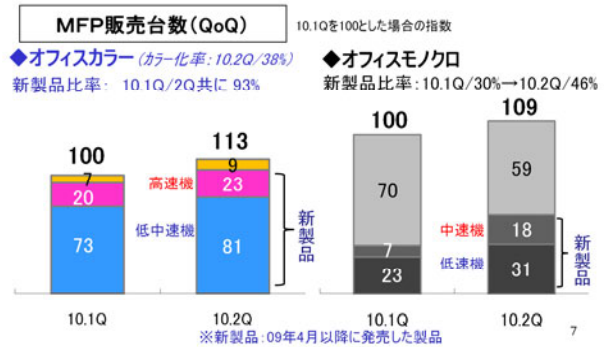
- オフィスMFP販売台数 : +25%/YoY
- ノンハード売上(現地通貨ベース) : +4%/YoY
- ▶ 新製品構成比上がり、海外市場は二桁成長を維持。
 <MFP販売台数 地域別YoY増減>

	カラー	モノクロ
・北米	+10% (+27%)	+0%
・欧州	+24% (+29%)	+20%
・日本	+4% (+17%)	△10%
・その他	+37% (+53%)	+34%



2Q実績(対直前期比)

- オフィスMFP販売台数 : +10%/QoQ
- ノンハード売上(現地通貨ベース) : +1%/QoQ
- ▶ カラー・モノクロともQoQでも成長モメンタムを維持。
- ▶ 2Qは、モノクロMFPの新製品比率が高まる。



The essentials of imaging

MFP販売数量は対前年比25%増、消耗品等のノンハード売上も現地通貨ベースで4%の増収と堅調な推移を示しました。MFP新製品比率はカラー:93%・モノクロ:38%となり、MFP販売拡大のドライバーとなりました。

直前期比でもカラー・モノクロ共に力強く伸長しました。特に増益となった主要因はモノクロMFPにおける新製品比率(特に中速域)の上昇によるものです。

情報機器事業 2010年度上半期の戦略商品



A3 カラー MFP



bizhub C360
bizhub C280
bizhub C220

A3 モノクロMFP



bizhub 423
bizhub 363
bizhub 283
bizhub 223

新興国専用 A3 モノクロMFP



bizhub 184
bizhub 164

A4 カラーMFP



bizhub C35

The essentials of imaging

8

左上は、昨年後半より販売を開始したカラーMFPで、今期も好調な販売が続いています。

右上は、これまで当社モノクロMFPの弱点となっていた、ファームウェア統一性の問題を克服した新製品であり、前述のとおり第2四半期以降、好調な販売が続いています。

左下は、新興国での事業拡大に向けて投入した専用モデルであり、モノクロMFPの販売数量拡大のドライバーとなりました。この好調な販売により、中国市場における10年4-6月のシェアは直前の3カ月と比較して3ポイント上昇しました。

右下は、海外市場で根強い需要があるA4MFPの新製品です。下半期より本格的な販売拡大を目指します。

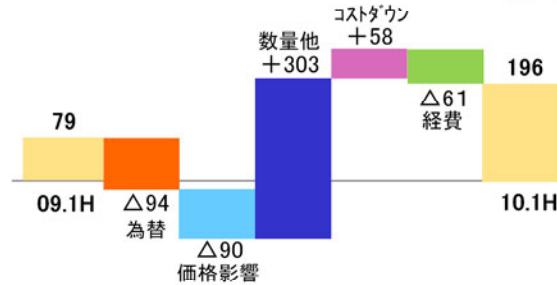
情報機器事業 営業利益増減分析



【億円】

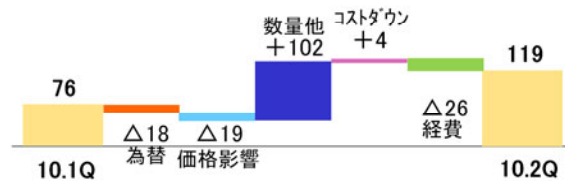
対前年(09.1H→10.1H)

- ▶ コストダウンは、主に電装系部品の統一化や調達努力による。
- ▶ 経費増は、物量増に伴う物流費増など販売変動費関連が主因。



対直前期(10.1Q→10.2Q)

- ▶ 数量他は、新製品投入及び高速セグメントシフトによる製品ミックス改善。
- ▶ 経費増は、物量増に伴う販売変動費の増加や研究開発費が主因。



The essentials of imaging

9

対前年比では、円高による為替影響と価格下落のインパクトを数量増や製品ミックスの改善やコストダウン(変動費)でカバーしました。結果、販売数量増に伴う経費増もありましたが、大幅な増益となりました。

直前期比では、対前年比同様、円高による為替影響と価格影響を新製品販売による数量増、製品ミックス改善でカバーし、大幅な増益となりました。

オプト事業 2010年度上半期の概況



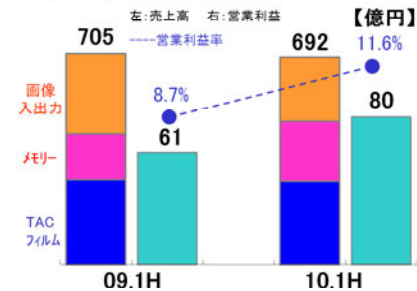
上半期実績(対前年比)

- 売上高: $\Delta 2\%/YoY$
- 営業利益: $+31\%/YoY$
- 営業利益率: 2.9ポイント改善/ YoY
- ▶ ガラスHD基板が増収ながら、レンズユニット関連が減収。TACフィルム等の調整影響もあり前年並みの売上に留まる。
- ▶ ガラスHD基板の販売増に伴う利益増が増益を牽引。

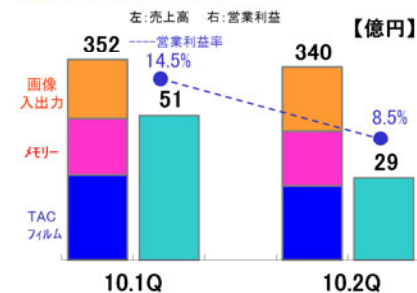
2Q実績(対直前期比)

- 売上高: $\Delta 3\%/QoQ$
- 営業利益: $\Delta 43\%/QoQ$
- 営業利益率: 6.0ポイント悪化/ QoQ
- ▶ デジタル家電全般に夏以降、顧客先で生産調整が始まり1Qと2Qでは大きく流れが変わる。
- ▶ TACフィルム、ガラスHD基板、ピックアップレンズの主力製品は総じて2Qは伸び悩み、収益力が低下。

◆売上・営業利益(YoY)



◆売上・営業利益(QoQ)



The essentials of imaging

10

対前年比では、ガラスHDが増収となりましたが、昨年度より規模を追わずに収益性を重視する戦略に切り替えたレンズユニット事業の規模縮小、および、TACフィルムを中心に第2四半期より顧客の在庫調整影響を受けた事により、売上高は前年並みに留まりましたが、営業利益はガラスHDが収益貢献し、前年比増益となりました。

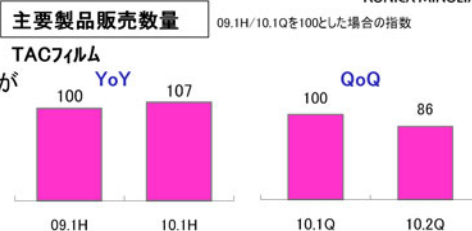
直前期比では、第1四半期までは主要製品が何れも好調な販売を示していましたが、夏以降に家電全般で調整局面となり、軒並み収益性が低下しました。

オプト事業 2010年度上半期の販売状況



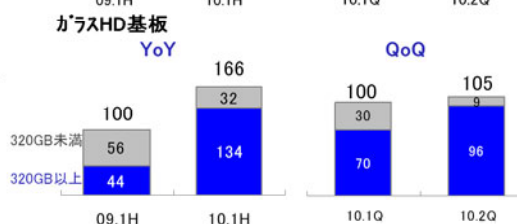
TACフィルム

- ▶ 上半期 (YoY) は、VA-TACは減少したが、薄膜・広幅TACが牽引し、全体の販売数量は+7%増加。
- ▶ 2Q (QoQ) は、調整影響を受けて全体数量減少の中、VA-TACは1Q水準を維持。



ガラスHD基板

- ▶ 上半期 (YoY) は、高記録密度の320GB用が牽引して、販売数量は大きく伸長。
- ▶ 2Q (QoQ) でも320GB用は伸びるが、調整影響により、全体数量は伸び悩む。



光ピックアップレンズ

- ▶ 上半期 (YoY) は、BD用、DVD用ともに販売数量は伸長。但し、BD用のプラスチック化拡大により平均単価が低下し、事業収益は伸び悩む。
- ▶ 2Q (QoQ) は、全ての用途向けに調整が入り、成長鈍化。



The essentials of imaging

11

TAC フィルム:

対前年比では、VA-TACは減少したものの、薄膜・広幅TACの伸長によりTAC総数は7%伸長しました。

直前期比では、対前年比とは逆に、VA-TAC数量はフラットながら、薄膜・広幅TACの調整により数量減となりました。

ガラスHD基板:

対前年比では、320GB以上の高密度品を中心に、数量が大幅伸長し収益貢献をしました。

直前期比では、販売数量は増加したものの、調整の影響により伸長率は限定的でした。

光ピックアップレンズ:

対前年比では、販売数量は拡大しましたが、BD(ブルーレイ)のガラスからプラスチックへのシフトにより平均単価が低下、収益は伸び悩みました。

直前期比では、調整の影響を受けて、数量は伸び悩みました。

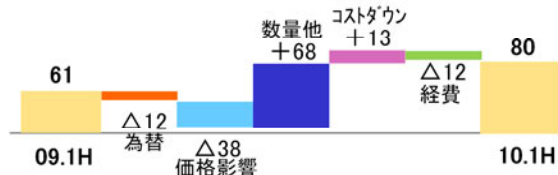
オプト事業 2010年度上半期の収益分析



対前年 (09.1H→10.1H)

【億円】

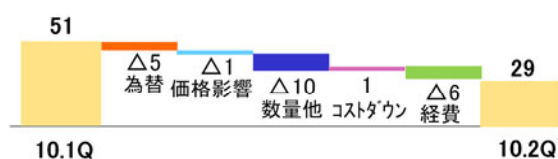
- ▶ 為替影響は、ガラスHDで主に発生。
- ▶ 価格影響は、レンズユニットとTACフィルムで主に発生。
- ▶ 数量増効果は、ガラスHD基板、TACフィルム、光ピックアップの順に貢献。
- ▶ 経費増は、TACフィルム第7工場稼働による償却費が発生。



対直前期 (10.1Q→10.2Q)

【億円】

- ▶ 数量他の減は、ガラスHD基板が増加するも、TACフィルム生産調整により減。
- ▶ 経費増は、新規分野等の研究開発費が増加。



The essentials of imaging

12

対前年比では、為替影響は主にガラスHDで影響を受けました。また、価格面でもデジカメや携帯電話用レンズユニット、TACフィルムなどで影響を受けました。費用面でもTACフィルム新工場の償却負担増の影響がありましたが、ガラスHDの数量増が大きく貢献し、増益となりました。

直前期比では、円高に加え、TACフィルムの減少やLED周辺レンズ等の新規事業展開に向けたR&D費用増等により、残念ながら減益となりました。

「成長軌道への転換」: 2010年度上半期の主な施策・成果



アジア市場での販売拡大

- ▶ 情報機器事業: 中国で新興国専用機の拡販でシェア拡大。
インドでMFP販売会社を設立(7月)し、事業展開力を強化。
- ▶ メディカル事業: インドで医療用機器販売会社を設立(6月)し、販売・サービス体制を強化。
- ▶ その他の事業: 計測機器事業は、中国自動車メーカーの新規顧客獲得。
産業用インクジェット事業は、アジア市場での売上急拡大。

OPSのグローバル展開

- ▶ 「ジャンルトップ戦略」で築いた中堅有力顧客との強固な接点を活かし、OPSを通して新たな価値提供による事業機会拡大に向けて、グローバル体制を整備。
併せて、GMA専任組織を設置。

プロダクションプリントの販売拡大

- ▶ メディカル&グラフィック事業の印刷部門を情報機器事業のプロダクションプリント部門に統合。
当社が有する知見、製品品質、事業ノウハウを集約し、デジタル商業印刷市場で本格開拓に着手。
- ▶ この施策に伴い、「選択と集中」を徹底し、米国でのCTP事業を売却。

The essentials of imaging

13

当社を取り巻く環境は依然不透明ながら、2010年度は「成長軌道への転換」と位置付け、諸施策の展開を図りました。ここでは上半期に実施した施策や成果について説明します。

「アジア市場での販売拡大」としては、新興国専用モデルの販売拡大により、中国におけるシェア拡大を達成しました。また、インド市場においては情報機器事業とヘルスケア事業で現地販社を設立、販売・サービス体制の構築と強化を図ります。

「OPSのグローバル展開」としては、OPS(オプティマイズド・プリント・サービス)アプローチによる販売拡大の施策を下半期より本格展開します。その為、上半期は全世界共通のサービスメニューを構築しました。また、グローバルな大口顧客の獲得にも注力すべく、専任組織を設置しました。

「プロダクションプリントの販売拡大」としては、メディカル&グラフィック事業の印刷部門を、10月より情報機器事業のプロダクションプリント部門に統合しました。これにより、印刷部門が有する知見や顧客接点をフルに活かし、成長領域である商業印刷分野での事業拡大を図ります。また、この組織再編に伴い、米国のCTP事業売却を行いました。

2010年度業績予想 全社業績



KONICA MINOLTA

(単位: 億円) (参考)

	10年度		増減 YoY	10年度半期別		増減 HoH	09年度 実績
	今回予想	前回予想		1H実績	2H見通し		
売上高	8,000	8,300	-4%	3,918	4,082	4%	8,045
営業利益	500	500	0%	226	274	21%	440
(営業利益率)	6.3%	6.0%		5.8%	6.7%		5.5%
のれん代償却費	85	90	-6%	43	42	-2%	92
のれん代償却前営業利益	585	590	-1%	269	316	17%	532
(のれん代償却前営業利益率)	7.3%	7.1%		6.9%	7.7%		6.6%
経常利益	430	460	-7%	179	251	40%	408
当期純利益	200	200	0%	86	114	33%	169
(当期純利益率)	2.5%	2.4%		2.2%	2.8%		2.1%
為替レート	USD	86.97	※90.00	88.94	85.00	△ 3.94	92.85
	Euro	111.92	110.00	113.83	110.00	△ 3.83	131.15
	※10年度2Q以降の前提レート						
設備投資	500	550	△ 50	246	254	8	369
減価償却費	630	650	△ 20	275	355	80	612
研究開発費	780	800	△ 20	353	427	74	685
FCF	250	200	50	125	125	0	729

The essentials of imaging

14

損益の予想については冒頭に触れたので、ここではその他の項目について説明します。

設備投資、減価償却費、研究開発費は何れも上半期の計画値は非開示ながら、当初想定を下回る支出となりました。但し、下半期については当初計画通りの値を据え置いています。

FCFは当初計画の200億円から250億円に上方修正しました。これは情報機器事業の新製品販売拡大に向けて、9月末在庫を積み増した事に起因しています。今期末は販売拡大により、在庫圧縮主体に運転資本の効率化を見込んでいます。

2010年度業績予想 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA
(単位: 億円)

売上高	10年度			10年度半期別		増減 HoH	09年度 実績
	今回予想	前回予想	増減	1H実績	2H見通し		
情報機器	5,490	5,600	-2%	2,661	2,829	6%	5,408
オプト	1,370	1,440	-5%	692	678	-2%	1,367
メディカル&グラフィック	890	1,020	-13%	449	441	-2%	1,044
その他事業	170	170	0%	80	90	13%	145
本社費用・調整他	80	70	14%	37	43	16%	81
グループ計	8,000	8,300	-4%	3,918	4,082	4%	8,045

営業利益	10年度			10年度半期別		増減 HoH	09年度 実績
	今回予想	前回予想	増減	1H実績	2H見通し		
情報機器	456	440	4%	196	260	33%	390
(営業利益率)	8.3%	7.9%		7.4%	9.2%		7.2%
オプト	150	205	-27%	80	70	-12%	144
(営業利益率)	10.9%	14.2%		11.6%	10.3%		10.5%
メディカル&グラフィック	16	20	-20%	6	10	72%	15
(営業利益率)	1.8%	2.0%		1.3%	2.3%		1.4%
その他事業	25	15	67%	11	14	27%	11
本社費用・調整他	△ 147	△ 180	-	△ 67	△ 80	-	△ 119
グループ計	500	500	0%	226	274	21%	440
(営業利益率)	6.3%	6.0%		5.8%	6.7%		5.5%

The essentials of imaging

15

(なし)

情報機器事業 2010年度下半期見通し

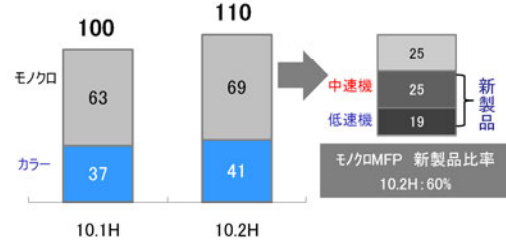


オフィスMFP

- オフィスMFP販売台数 : +10%/HoH
 - ノンハード売上(現地通貨ベース): +2~3%/YoY
- 〈主な取り組み〉
- ▶ 日米欧でのカラー/モノクロMFP新製品の販売上積み。
 - ▶ 中国、インドでの更なる販売拡大。
 - ▶ OPS展開の加速とGMA獲得

オフィスMFP販売台数 (HoH)

10.1Hを100とした場合の指数

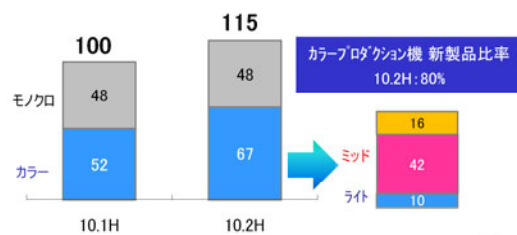


プロダクションプリント

- プロダクション機 販売台数 : +15%/HoH
- 〈主な取り組み〉
- ▶ カラー新製品3機種の本格導入。
 - ▶ デジタル商業印刷分野での展開加速。
 - ▶ 印刷部門統合のシナジー効果の早期実現。

プロダクション機 販売台数 (HoH)

10.1Hを100とした場合の指数



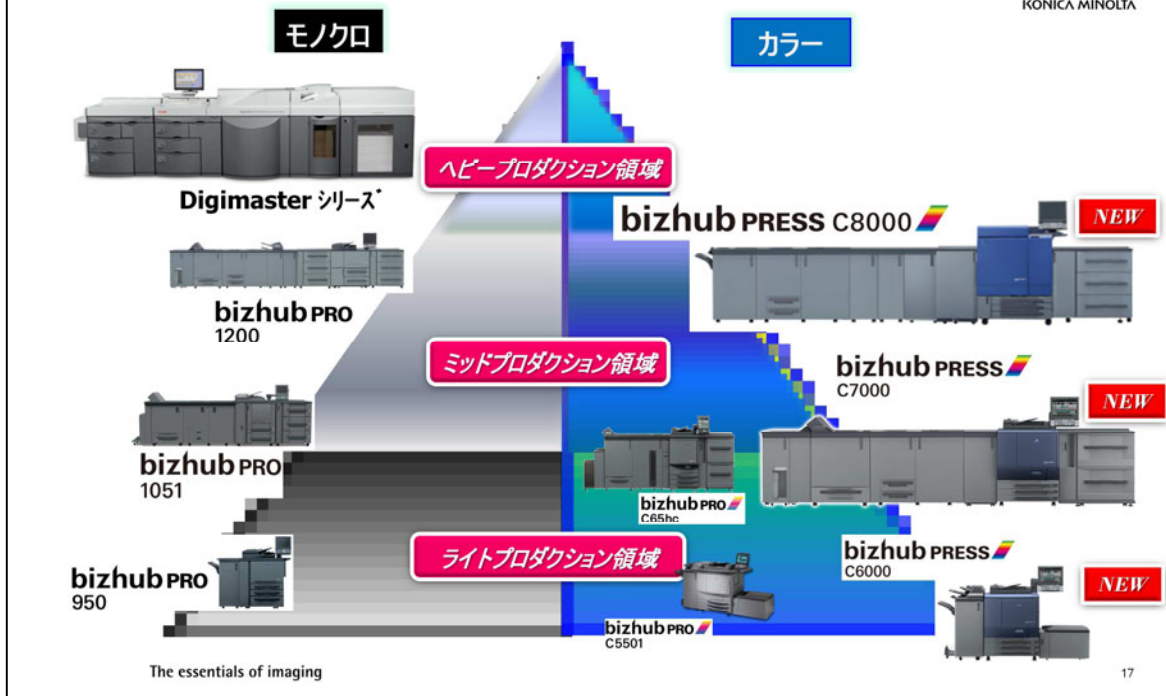
The essentials of imaging

16

オフィス領域では、MFP新製品を更に販売拡大する事により、一層の収益拡大を目指します。また前述のOPS展開の加速と、大口案件獲得にも注力します。

プロダクションプリント領域では、カラー新製品の本格展開による事業規模の大幅拡大を目指します。下半期からは印刷部門との統合シナジーを活かし、商業印刷分野での事業展開を加速させます。

情報機器事業 2010年度下半期の戦略商品



下半期より新製品3機種を投入し、プロダクションプリント領域における当社製品のラインアップは大変強固なものとなりました。

特にカラー機の最上位機種となる「bizhub PRESS C8000」は成長領域である商業印刷市場向けに開発されたモデルであり、このモデルを皮切りに今後も更なるラインアップの拡充を図ります。

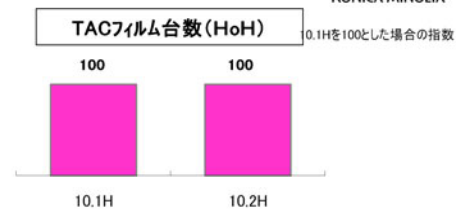
オプト事業 2010年度下半期見通し



KONICA MINOLTA

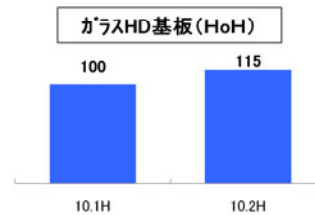
TACフィルム

- TAC販売数量 : +0%/HoH
- ▶ 調整影響で全体数量は当初予想から減少するが、主力のVA-TACは、新製品によるシェア挽回を見込む。



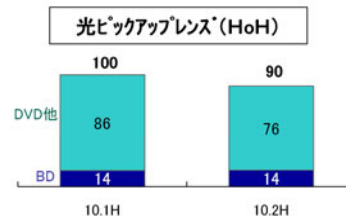
ガラスHD基板

- ガラスHD基板販売数量 : +15%/HoH
- ▶ 調整を機にマレーシアへの生産シフトを加速するとともに、500GB用基板の量産開始に向けた体制を整える。



光ピックアップレンズ

- ピックアップレンズ販売数量 : Δ 10%/HoH
- ▶ 調整・市況悪化を機に、シェア拡大と収益力向上に向けてコスト競争力を一層強化する。



The essentials of imaging

18

第2四半期以降の調整影響を受けて、主要製品の下期販売数量は引き続き調整が続くものと想定しています。

TACフィルムでは、薄膜・広幅TACは調整影響を受ける一方で、VA-TACはシェア拡大により上半期比増を見込んでおり、TAC総量では上半期同等となる見込みです。

ガラスHD基板では、高密度品中心に数量拡大を見込みますが、調整影響により当初想定を若干下げています。

光ピックアップレンズでは、顧客の調整影響に加え、下半期は非需要期となる事から、当面はコスト削減など自助努力による事業体質強化に取り組めます。

- ▶ 情報機器事業は、円高環境の中で為替換算による収益の目減りはあるが、高採算のMFP新製品の拡販に注力し、売上総利益の最大化に努める。
- ▶ オプト事業は、顧客先での生産調整が長引き、厳しい環境にあるが、これを機にもう一段の体質強化を進める。
- ▶ その他の事業は、好調なモメンタムを維持する。
- ▶ 費用面では、将来成長に向けて必要な投資は、出来る限り確保する。

好調な販売モメンタムが継続する見通しの情報機器事業では、高採算なMFP新製品やプロダクションプリント新製品の販売拡大に注力し、売上総利益の極大化に努める一方で、市況調整が長引く見込みのオプト事業では、これを機に一層の体質強化に努めます。

また経費面では、将来事業の育成に必要なR&D費用等の削減は行いませんが、その他の不急な費用等については、良く精査をしていきたいと考えています。

< 参 考 资 料 >

連結業績 上半期比較



	10年度 1H	09年度 1H	YoY	[億円]
売上高	3,918	3,933	△ 15	
売上総利益	1,809	1,689	120	
(売上総利益率)	46.2%	42.9%		
営業利益	226	92	134	
(営業利益率)	5.8%	2.3%		
経常利益	179	87	92	
税前利益	116	69	47	
当期純利益	86	35	51	
(当期純利益率)	2.2%	0.9%		
EPS [円]	16.29	6.67		
設備投資額	246	174	72	
減価償却費	275	309	△ 34	
研究開発費	353	353	0	
FCF	126	321	△ 195	
為替レート [円] USD	88.94	95.49	△ 6.55	
Euro	113.83	133.16	△ 19.33	

The essentials of imaging

22

セグメント別売上高/営業利益 上半期比較



売上高	10年度 1H	09年度 1H	YoY	[億円]
情報機器	2,661	2,599	61	
オプト	692	705	△ 13	
メディカル&グラフィック	449	529	△ 80	
その他事業	80	64	15	
HD他	37	36	2	
グループ計	3,918	3,933	△ 15	

営業利益	10年度 1H	09年度 1H	YoY
情報機器	196	79	117
(営業利益率)	7.4%	3.0%	
オプト	80	61	19
(営業利益率)	11.6%	8.7%	
メディカル&グラフィック	6	18	△ 12
(営業利益率)	1.3%	3.4%	
その他事業	11	△ 1	12
HD他	△ 67	△ 66	△ 1
グループ計	226	92	134
(営業利益率)	5.8%	2.3%	

The essentials of imaging

※その他事業：計測機器事業および産業用インジェット事業 23

連結業績 四半期比較



	10年度 2Q	09年度 2Q	YoY	10年度 1Q	[億円] QoQ
売上高	1,972	2,039	△ 67	1,947	25
売上総利益	925	892	33	884	40
(売上総利益率)	46.9%	43.7%		45.4%	
営業利益	128	97	30	98	29
(営業利益率)	6.5%	4.8%		5.1%	
経常利益	115	81	34	64	51
税前利益	94	65	29	22	72
当期純利益	51	32	19	35	17
(当期純利益率)	2.6%	1.6%		1.8%	
EPS [円]	9.70	6.10		6.58	
設備投資額	135	100	36	111	24
減価償却費	136	155	△ 20	139	△ 3
研究開発費	182	176	△ 5	171	11
FCF	139	269	△ 131	△ 13	152
為替レート [円]					
USD	85.87	93.65	△ 7.78	92.01	△ 6.14
Euro	110.66	133.74	△ 23.08	116.99	△ 6.33

セグメント別売上高/営業利益 四半期比較



売上高	10年度	09年度	YoY	[億円]	
	2Q	2Q		10年度	QoQ
				10	
情報機器	1,333	1,327	5	1,328	5
オプト	340	365	△ 25	352	△ 12
メディカル&グラフィック	239	292	△ 53	210	29
その他事業	40	36	4	39	1
HD他	20	19	1	18	2
グループ計	1,972	2,039	52	1,947	25

営業利益	10年度	09年度	YoY	10年度	
	2Q	2Q		1Q	QoQ
情報機器	119	76	43	76	43
(営業利益率)	9.0%	5.8%		5.8%	
オプト	29	45	△ 16	51	△ 22
(営業利益率)	8.5%	12.2%		14.5%	
メディカル&グラフィック	7	10	△ 3	△ 1	8
(営業利益率)	2.8%	3.3%		-0.4%	
その他事業	6	1	5	5	1
HD他	△ 34	△ 34	1	△ 33	△ 0
グループ計	128	97	30	98	29
(営業利益率)	6.5%	4.8%		5.1%	

※その他事業：計測機器事業および産業用インクジェット事業

The essentials of imaging

25

2010年度業績予想(上半期・下半期)



	10年度 予想			09年度 実績		
	1H 実績	2H	年間	年間	YoY	
売上高	3,918	4,082	8,000	8,045	△ 45	
営業利益	226	274	500	440	60	
(営業利益率)	5.8%	6.7%	6.3%	5.5%		
経常利益	179	251	430	408	22	
当期純利益	86	114	200	169	31	
(当期純利益率)	2.2%	2.8%	2.5%	2.1%		
EPS [円]	16.26	21.43	37.72	31.93		
設備投資額	246	254	500	369	131	
減価償却費	275	355	630	612	18	
研究開発費	353	427	780	685	95	
FCF	126	124	250	729	△ 479	
	※3Q以降の想定レート					
為替レート[円]	USD	88.94	85.00	86.97	92.85	△ 5.88
	Euro	113.83	110.00	111.92	131.15	△ 19.24

1円あたり為替感応度(年間):	USD	Euro
売上高	25億円	13億円
営業利益	3億円	7億円

2010年度業績予想 セグメント別(上半期・下半期)

[億円]  KONICA MINOLTA

売上高	10年度 予想			09年度 実績	
	1H 実績	2H	年間	年間	YoY
情報機器	2,661	2,829	5,490	5,408	82
オプト	692	678	1,370	1,367	3
メディカル&グラフィック	449	441	890	1,044	△ 154
その他事業	80	90	170	145	25
HD他	37	43	80	81	△ 1
グループ計	3,918	4,082	8,000	8,045	△ 45

営業利益	10年度 予想			09年度 実績	
	1H 実績	2H	年間	年間	YoY
情報機器	196	260	456	390	66
(営業利益率)	7.4%	9.2%	8.3%	7.2%	
オプト	80	70	150	144	6
(営業利益率)	11.6%	10.3%	10.9%	10.5%	
メディカル&グラフィック	6	10	16	15	1
(営業利益率)	1.3%	2.3%	1.8%	1.4%	
その他事業	11	14	25	11	14
HD他	△ 67	△ 80	△ 147	△ 119	△ 28
グループ計	226	274	500	440	60
(営業利益率)	5.8%	6.7%	6.3%	5.5%	

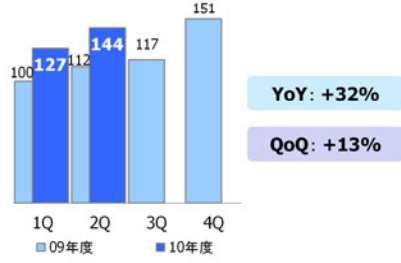
The essentials of imaging

27

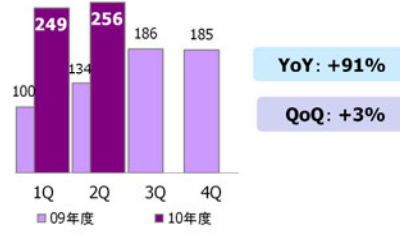
情報機器事業 主要製品販売状況



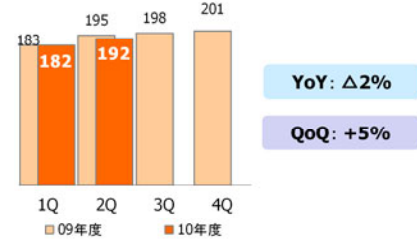
■ A3カラー-MFP 販売台数*



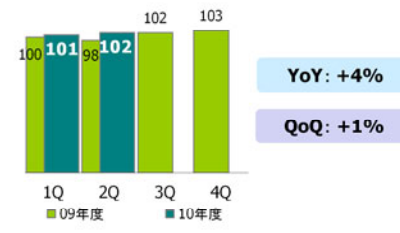
■ A4カラー-MFP 販売台数*



■ プロダクションプリント売上高 [億円]



■ MFPノンハード売上(主要5販売社)* (為替影響排除後)



The essentials of imaging

前方棒グラフ: 2010年度実績

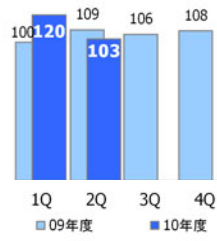
後方棒グラフ: 2009年度実績

* 2009年度1Qを100とした場合の指数

オプト事業 主要製品販売状況

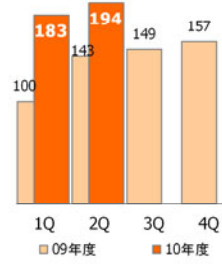


■ TACフィルム販売数量



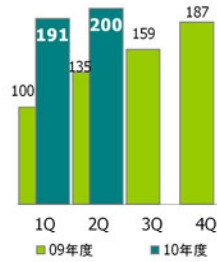
YoY: $\Delta 5\%$
QoQ: $\Delta 14\%$

■ ピックアップレンズ販売数量



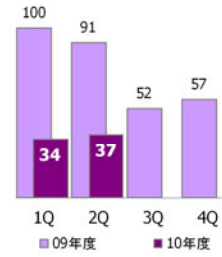
YoY: $+36\%$
QoQ: $+6\%$

■ ガラスHD基板販売数量



YoY: $+48\%$
QoQ: $+5\%$

■ 携帯電話用コンポーネント



YoY: $\Delta 59\%$
QoQ: $+8\%$

The essentials of imaging

前方棒グラフ: 2010年度実績

後方棒グラフ: 2009年度実績

* 2009年度1Qを100とした場合の指数

営業利益増減分析



上半期 前年同期比較
(09年度 vs. 10年度)

	情報機器	オプト	その他	[億円] 合計
【要因】				
為替影響	△ 94	△ 12	△ 9	△ 115
価格変動	△ 90	△ 38	0	△ 127
数量増減他	303	68	△ 30	341
コストダウン	58	13	2	73
経費増減	△ 61	△ 12	35	△ 37
【営業利益】				
増減額(YoY)	117	19	△ 1	134

四半期 前年同期比較
(09年度 vs. 10年度)

	情報機器	オプト	その他	合計
【要因】				
為替影響	△ 60	△ 8	△ 6	△ 74
価格変動	△ 44	△ 18	0	△ 62
数量増減他	165	15	△ 8	172
コストダウン	27	5	△ 2	30
経費増減	△ 44	△ 10	19	△ 36
【営業利益】				
増減額(QoQ)	43	△ 16	3	30

The essentials of imaging

30

販売管理費・営業外損益・特別損益



[億円] KONICA MINOLTA

	10年度 1H	09年度 1H	YoY	10年度 2Q	09年度 2Q	YoY
販売管理費						
販売変動費	231	198	33	126	108	18
研究開発費	353	353	0	182	176	6
人件費	574	603	△ 29	280	293	△ 13
その他	425	444	△ 18	209	217	△ 8
販売管理費 計	1,583	1,597	△ 14	797	795	2
* 為替影響額:		△ 66 億円(実質増減 +52 億円)		△ 40 億円(実質増減 +43 億円)		
営業外収支						
金融収支	△ 7	△ 9	2	△ 4	△ 5	1
為替差損益	△ 33	2	△ 35	△ 7	△ 12	5
その他	△ 7	2	△ 10	△ 2	0	△ 2
営業外収支 計	△ 47	△ 4	△ 43	△ 13	△ 16	3
特別損益						
固定資産売却損益	△ 8	△ 15	6	△ 6	△ 13	7
投資有価証券および 関係会社株式評価・売却損益	△ 16	△ 2	△ 13	△ 6	△ 0	△ 6
固定資産減損損失	△ 1	△ 2	1	△ 1	△ 2	1
事業構造改善費用	△ 34	△ 12	△ 22	△ 10	△ 4	△ 7
その他	△ 4	13	△ 17	2	2	△ 1
特別損益 計	△ 63	△ 18	△ 45	△ 21	△ 16	△ 5

貸借対照表



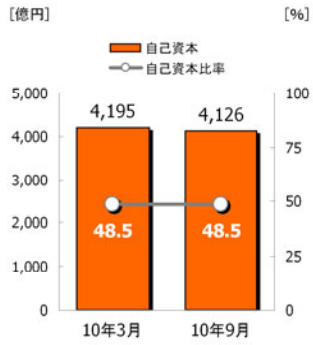
KONICA MINOLTA

資産の部	10年9月	10年3月	増減	[円]		
				10年9月	10年3月	増減
手元資金	1,695	1,641	53			
売上債権	1,607	1,777	△ 170	US\$	83.82	93.04 △ 9.22
棚卸資産	1,058	983	75	Euro	114.24	124.92 △ 10.68
その他	561	491	70			
流動資産 計	4,920	4,893	28			
有形固定資産	1,984	2,051	△ 66			
無形固定資産	910	991	△ 81			
投資その他	691	724	△ 33			
固定資産 計	3,585	3,765	△ 181			
資産 合計	8,505	8,658	△ 153			
負債および純資産の部						
仕入債務	853	831	22			
有利子負債	1,909	1,974	△ 64			
その他負債	1,604	1,645	△ 41			
負債 合計	4,366	4,450	△ 84			
自己資本 (株主資本+評価換算差額等)	4,126	4,195	△ 69			
その他	12	12	0			
純資産 合計	4,139	4,208	△ 69			
負債・純資産 合計	8,505	8,658	△ 153			

連結貸借対照表 主要指標

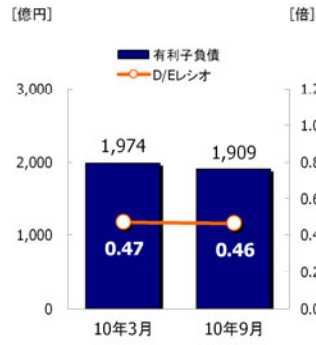


● 自己資本比率



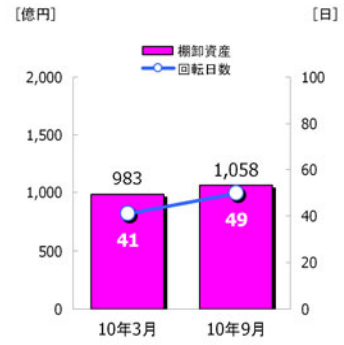
自己資本比率：
 自己資本 ÷ 期末総資産
 ※自己資本=期末株主資本+評価・換算差額合計

● 有利子負債残高・D/Eレシオ



D/Eレシオ：
 期末有利子負債 ÷ 自己資本
 ※自己資本=期末株主資本+評価・換算差額合計

● 棚卸資産・棚卸資産回転日数



棚卸資産回転日数：
 期末棚卸資産 ÷ (売上/日)

キャッシュ・フロー



[億円]

	10年度 1H	09年度 1H	YoY	10年度 2Q	09年度 2Q	YoY
税金等調整前純利益	116	69	47	94	65	29
減価償却費	275	309	△ 34	136	155	△ 20
法人税等の支払額	△ 31	62	△ 93	△ 17	71	△ 88
運転資本増減他	△ 41	101	△ 142	31	107	△ 76
I. 営業活動によるキャッシュフロー	318	541	△ 223	244	398	△ 154
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 192	△ 220	28	△ 105	△ 129	24
I.+ II. FCF	126	321	△ 195	139	269	△ 131
有利子負債の増減	△ 31	137	△ 167	△ 45	△ 75	31
配当金の支払額	△ 40	△ 53	13	△ 1	△ 0	△ 1
その他	△ 7	△ 10	3	△ 4	△ 5	1
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△ 78	74	△ 151	△ 50	△ 80	31